

宇宙観測グループ

人の移動など

2015年度の研究室の人員は以下のとおりでした。

- 教 授：中井 直正、久野 成夫
- 助 教：新田 冬夢
- 研 究 員：永井 誠
- 大学院生：D3 = 1名、D2 = 1名、
M2 = 7名（うち教育研究科1名）、M1 = 6名
- 卒 研 生：5名

年度当初に新田冬夢が（任期付）助教に着任しました。また6名（うち1名は中国からの留学生）の新大学院生（M1）と4名の新卒研究生を新たに迎えました。

D3、M2、卒研究生の諸君はそれぞれの研究を一生懸命行い、D3の今田大皓君は南極10mテラヘルツ望遠鏡の光学系の設計を中心にまとめた研究で博士号を取得し、研究科長賞も得て大学院後期課程を修了しました。新年度4月からはJAXA宇宙科学研究所の研究員として新たな研究を開始しています。M2の朝倉健、田中伊織、畠山拓也、久松俊輔、山田淑乃、小池紫央里の各氏も修士論文が合格し大学院前期課程

を修了して、4月から全員が社会人として新しい道を進んでいます。卒研究生の飯田美幸、川原裕佑、村山洋佑の各氏もがんばって卒業研究をまとめ、無事卒業しました。このうち飯田さんと村山君が大学院に進学し、川原君は社会人として新しい道を進んでいます。

研究の進捗

国土地理院の32mアンテナではオリオン分子雲の分子雲コアの観測、W3のアンモニア輝線観測および活動的銀河中心核のアンモニア吸収線探索の観測を行いました。一方、苦勞して立ち上げ長く観測に使ってきた32mアンテナですが、非常に残念なことに2016年度末までに取り壊すことになりました。

南極10mテラヘルツ望遠鏡に関しては、ドームC（コンコルディア基地）を新建設候補地としてフランス・イタリア側と協議を行うとともに、2016年1月10日～2月13日に中井がドームCの現地調査と当該望遠鏡の輸送・現地建設・運用に関する大枠の取り決めをしてきました。ニュージーランドまで通常の航空機で行ったあと、イタリア観測船で南極沿岸部のイタリア基



地に行き（7日）、1泊ののち小型機で内陸のドームCに着きました。約2週間滞在したあと、帰路は小型機で沿岸部の豪州基地に行き、3泊したあと豪空軍の大型輸送機でオーストラリアに戻ってきました。貴重な調査旅行であり、また聞くと見るでは大違いでした。全旅程

中で東洋人は中井だけでしたが、どこでも大変親切にいただきました。旅程が頻繁に変更となり、国内（学内）では卒論、修論、D論と重なり、多くの迷惑をかけましたが

（中井 直正）